

参考様式 様式5-2 添付書類（復興整備事業に関する事項が記載された書面）

事業概要

事業名称	常磐線被災鉄道移設事業				
事業目的	被災した東日本旅客鉄道株式会社常磐線（駒ヶ嶺～浜吉田）について、駅や鉄道の利用客の安全を確保しつつ、地域全体の復興やまちづくり計画との整合を図りながら、線路を現在の位置よりも内陸側に移設して復旧することを目的とする。				
事業期間	平成25年度～平成28年度（予定）				
面積 (ha)	事業区域面積 ※図上求積による			19.50	
	地域森林計画区域を変更する面積 ※森林簿による			5.15	
用地面積 (ha) ※図上求積 による	用地の現況 転用後の用途	地域森林計画 対象民有林	その他	計	比率 (%)
	鉄道線路用地	5.15	14.35	19.50	100.00
	計	5.15	14.35	19.50	100.00
	比率 (%)	26.41	73.59	100.00	
林況	樹種		面積(ha) ※図上求積による		林齢 (年)
	アカマツ		1.39		49～91
	クロマツ		0.72		50～76
	ヒノキ		0.34		17～47
	その他広葉樹林 他		2.70		8～67
地形	標高：TP1.9m～TP30.2 平均傾斜度：約5度 阿武隈山地及び角田盆地の東側の角田丘陵や駒ヶ嶺丘陵等の丘陵地・段丘と、亙理海岸平野や相馬台地・低地等の低地からなっており、東側は太平洋岸に面している。				
地質	丘陵地上部：先第三紀の千枚岩質砂岩・頁岩や花崗閃緑岩等の固結堆積物 丘陵地下部、段丘部：新第三紀鮮新世の粗粒砂岩や礫岩等の半固結堆積物や第四紀更新世の礫、砂、泥などの未固結堆積物。 低地部：第四紀更新世の礫、砂、泥などの未固結堆積物。				
周辺地域への影響及び生活への配慮等	<p>移設計画の検討にあたっては、まちづくり計画と一体となったルートとしつつ、良好な生活環境を保持するため、路線の検討段階からできる限り市街地・集落の通過を避けたルートとしている。</p> <p>施工計画については、作業ヤードは計画路線を極力利用する計画とし、工事の実施にあたっては低騒音・低振動型の建設機械の採用するとともに、工事用車両の運行についても関係自治体と調整しながら、生活環境への影響を極力排除した計画とする。工事で発生する濁水については、沈砂池を設置し上澄みのみを河川を放流する。土壌については、切土工で発生した建設発生土は現場内の盛土工等に再利用し、地盤の掘削による発生土については、土壌汚染の測定を実施し、関係法令に基づいて適切に処理することとする。</p> <p>切土工で発生する法面については、種子吹付または、コンクリート格子枠による保護を計画している。</p> <p>また、農地を通過することから、利水に関して水路等管理者と協議し、工事期間中および完成後について隣接する農地に対して従前の機能を確保するよう計画している。</p>				

※「地域森林計画を変更する面積」は、開発に係る森林簿面積を基に集計した面積で、「用地面積」は、図上求積による面積で、一致しない。

※「転用後の用途」は、添付図面「土地利用計画図」と整合するよう、宅地、公共用地等、道路、水路、法面、公園・緑地、公共用地等に適宜区分して作成する。